

世界の農業機械・資材トレンド

ヨーロッパの農機実用テストの権威、ドイツ「profi」誌に掲載された世界の農機の最新情報

Argentina sizes up Oz market オーストラリア

アルゼンチン製の農機に注目

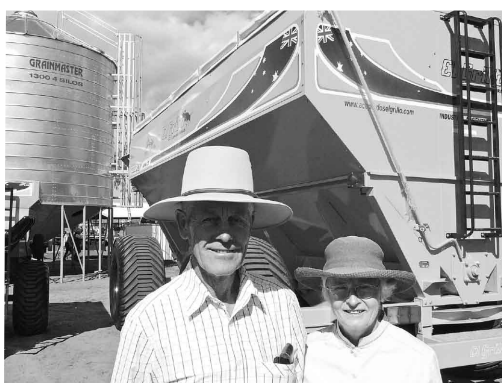


「今年の農機展示会で得た最大の収穫、それはアルゼンチン製の25t穀物ワゴンを見つけたことだね」。そう語るのは、クイーンズランドの農業経営者コガン氏だ。この穀物ワゴンがオーストラリアで販売されるようになったのは、デイヴィー・グループの総支配人を務めるマルコム・マッケラー氏の営業努力だろう。

農業分野が急成長しているアルゼンチンでは、過去10年間で穀物の生産性を6割向上させており、年間9400万tの穀物生産量がある。こうした状況の中でアルゼンチンの農機業界も一緒に成長している。現在、同国には600社以上の農機メーカーがある。「穀物ワゴンのメーカーだけで24社、播種機のメーカーなら75社もあります。私が訪問した自走式スプレーヤーのメーカーは年間で500台を販売していました」とマッケラー氏はその盛況ぶりを語る。

アルゼンチンの農機メーカーの多くは高品質な商品を製造するために、最新式のレーザー工作機械とロボット溶接機に投資をしている。冒頭の穀物ワゴンの場合にも、電子計量システムが標準装備されている。もちろん基本的な効率も高く、10tの穀物を1分間で積み降ろす。

デイヴィー・グループでは今後もアルゼンチン製の農機に注目して、より多くの価値の高い製品を提供したい方針である。



デイヴィー・グループの農機展示会を訪れたクイーンズランドの農業経営者コガン氏。今回の一押しはアルゼンチン製の穀物ワゴンだ。

The next generation 米国

次世代トラクタ



ケースIH社の営業部長でマグナム・トラクタを担当するジョン・ボーンカー氏は「農家の皆様が求めるトラクタは、燃費がよくてパワーがあり大面積を迅速に処理する生産性が高いもの。とはいえ、これらの条件を満たしても快適さは犠牲にはならない」と語る。

新しいSCR排出ガス浄化技術を導入するかどうかについて、同社のミッチ・カイザー氏は昨年の夏、生産現場で農家から話を聞いた。その結果、高温の排気ガスが農地の乾いた切り株を発火させて、大規模な火災を起こす原因となることなどがわかった。

トラクタとBMW社製のディーゼル・エンジンには、2年前からすでに新しい技術が採用されている。同社も2011年初頭から米国内の生産ラインでSCR装置を搭載した新型マグナムの生産を開始した。同機種は操作環境と燃料効率を改善すると同時に、出力と生産性を引き上げることに成功している。

ボーンカー氏はケースIH社の技術で排ガス基準ステップ4を満たすと同時に、燃費も改善できると見込む。新しいマグナムのなかで235型から340型までの機種は、7120型コンバインと同じ8.7ℓのエンジンを採用しており、基準に適合している。180型から225型までの機種は6.7ℓのエンジンを搭載しており、これから基準に合わせて改良する予定だ。



ケースIH社は、米国農家が直面するSCR排ガス基準にマグナム・トラクタを対応できるとしている。



Storing slush differently
オランダ



浚渫船が汲みあげた堆積物は袋ごと乾燥させた後で切開、中身はトレーラーに積んで運ぶ。



堆積物処理を簡単に



ドイツ・ニーダーザクセン州のハウスステッテ村で行なわれた水路や浅瀬を清掃する公開実験で、オランダのアルメロ市を拠点とするテンケイト社は、堆積物を集めて貯蔵する新しい方法を発表した。

農業地域の水路に溜まる堆積物は、業者が掘削機で汲み上げて水辺の畑に撒いて処理する。これはとても費用がかかる。テンケイト社が推進するやり方は、請負業者が浚渫船に乗って、堆積物の巨大な袋に詰め込む。

この袋は水だけを通し、堆積物だけが中に残る繊維で作られているので、1週間ほど乾燥させて切り開くと、内容物はトレーラーに積んで運べる。

これを使い捨てるのは無駄遣いだ。テンケイト社によると、水分を含んだ堆積物を運ぶコストに比べると、まず袋の方が安上がりだそうだ。

Tony is on a mission
南アフリカ

トニー氏のトラクタは屋根から折り畳み式テントが引き出される。キャンプ用品と調理器具はトレーラーに積まれている。



トラクタはケープタウンを出発してオーストラリアに渡り、ニュージーランドを経て南米に向かう。

トニーの使命



「トラクタ野郎トニー」として有名なトニー・ブサイラ氏はオーストラリア生まれ。カナダに住んでいた時期もあるが、今は南アフリカに住んでいる。数年前、彼は武装した強盗に襲われて2発の弾丸が当たり、生死の境をさまよった。快復には長い時間がかかったが元気になったからは、恐ろしい経験や虐待を受けて心にトラウマのある人々のために働いている。

トニーの最も新しい冒険は、5年以上かけて1台のビンテージ・トラクタで世界一周する旅だ。それにしてもトラクタで世界一周の旅をすることが、どうして虐待された人々の権利を守ることに役立つのだろう。

暴力と虐待に対する人々の意識を高めて、価値ある大義のために使われる基金を集めるため」だそうである。